

## 第1学年選択 音楽科学習指導略案

- 1 題材 「アルトリコーダーでアンサンブルを楽しもう」  
 教材 基礎学習曲：「聖者の行進」「少年時代」「ミッキーマウス・マーチ」「虹の彼方へ」  
 アンサンブル学習曲：「大きな古時計」「悲しみのソレアード」  
 研究発表希望者演奏曲として：4重奏「チキ・チキ・バン・バン」「木星」

### 2 題材の目標

- ・アルトリコーダーの演奏や音色に関心をもち、協力して練習に取り組むことを通して、主体的にリコーダーアンサンブルの楽しさを味わう。〔関心・意欲・態度〕
- ・アルトリコーダーの美しい音色や響きを感じ取るとともに、アンサンブル全体の響きの美しさを感じ取る。〔感受・表現の工夫〕
- ・アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付け、いろいろなアーティキュレーションを工夫して表現できる。〔表現の技能〕
- ・楽曲に適切なアーティキュレーションや強弱・速度・奏法を聴き取る。〔鑑賞の能力〕

### 3 題材の指導計画（12）時間

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準〈評価の方法〉
1	1 アルトリコーダーの学習に入る準備をする。 ・用具の取り扱いや授業の進め方。 ・CDでリコーダーの演奏を鑑賞。	・ <b>小学校で学習したソプラノリコーダーが苦手な生徒には、新たな気持ちで取り組めるように助言する。</b>	関：アルトリコーダーの演奏や音色に関心をもつ。〈様相チェック・発言チェック〉
3	2 個人で進級テストを受けながら、アルトリコーダーの基本的な運指・呼吸・タンギングの練習をする。 D級：左手の音階練習→「聖者の行進」 C級：右手の音階練習→「少年時代」 B級：両手の練習・タンギング→「ミッキーマウス・マーチ」 A級：サミングの練習→「虹の彼方へ」	・実際に教師がソプラノリコーダーとアルトリコーダーの短い演奏をして、違いに気付くことができるようにする。 ・ <b>小学校からの器楽表現の技能の差に配慮する。</b>	表：呼吸の仕方、タンギングの基礎的な技能が身に付いている。〈形成テスト・演奏チェック・発言チェック〉 感：アルトリコーダーの美しい音色や響きを感じ取って表現できる。〈振り返りプリント分析〉
4	3 声部の役割と全体の響きを感じながらアンサンブルをする。 ・2重奏「大きな古時計」 ～主なアーティキュレーション～ スタッカート テヌート ・3重奏「悲しみのソレアード」 ～主なアーティキュレーション～ レガート テヌート	・楽譜や教師の範奏からアーティキュレーションの奏法の違いを感じ取って、練習の参考にできるようにする。 ・友達の演奏にも耳を傾け、声部の響き合いを感じ取るように促す。	関：アンサンブルの楽しさを感じながら、意欲的に練習に取り組む。〈様相チェック・発言チェック〉 表：・曲にふさわしいアーティキュレーションを工夫して演奏することができる。・声部の役割と全体の響きを感じながらそれぞれのパートの旋律を演奏することができる。〈演奏チェック〉
3	4 発表会に向けて準備をし、練習をする。 ・グループづくりと選曲 ・個人練習とグループ練習	・既習曲や曲集から自分たちの興味や技能にあった曲を選曲させる。 ・主旋律を生かした曲想表現を工夫させる。	関：アンサンブルの楽しさを実感し、協力して意欲的に活動する。〈様相チェック〉
1	5 曲にあった研究演奏発表会をする。	・各グループの表現の工夫を感じ取り、相互評価により活動の達成感を味わわせる。	感表：全体の響きの美しさを味わいながら、アンサンブルをする。〈演奏チェック〉

(1) 本時の指導観

本選択授業には、①アルトリコーダーやギターなど、未経験の楽器を演奏することで、より音楽に親しみたい、②小学校の音楽で学習したリコーダー・歌唱・読譜にもう一度取り組みたい、という生徒が集まっている。「アルトリコーダーには、1学期末から学習に入ったが、運指や響きの違うソプラノリコーダーに新鮮な気持ちでよく取り組んでいる。

前時までに生徒は、これまでに学習した基礎的な奏法やいろいろなアーティキュレーションを生かして2重奏に取り組んできている。そこで本時からは、3重奏「哀しみのソレアード」に取り組ませることによって、リコーダーアンサンブルが生み出すハーモニーの美しさを感じ取らせるとともに、アンサンブルの楽しさを味わわせたい。具体的にはまず、**小学校からの技能の差に配慮し、全体で新しい運指を確認した後、指がスムーズに動くようになってからリズムをつける方法で進めていく。また、個人練習の時間を取り、つまずいている生徒には個別指導を行ったり、範奏するなどしてわかりやすく学習を進めたい。**最後に教師の伴奏に合わせて演奏し、伴奏やまわりの友だちの「呼吸」を感じながら演奏することの大切さを感じとらせるとともに、アンサンブルをつくっていく楽しさを味わわせたい。

(2) 主眼 「哀しみのソレアード」の主旋律を運指やリズムに気を付けて演奏することができる。

- (3) 準備 ①アルトリコーダー ②譜面台 ③器楽の教科書  
④「哀しみのソレアード」楽譜 ⑤振り返りプリント ⑥筆記用具

(4) 過程

学習活動・内容	○手だてや留意点 ◆[観点]評価〈 評価方法 〉						
<p>1 「哀しみのソレアード」の楽譜を配布し、3つの声部からなる3重奏であることに気付く。</p> <p>2 今日の学習のめあてを確認し、教師の範奏を聴いて、曲のイメージをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">                     伴奏に合わせて主旋律をまちがえずに演奏できるようにしよう。                 </div> <p>3 全体で新しい運指を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜中の音をマークし、運指図を記入する。</li> <li>・ハ長調とヘ長調の音階を練習してスムーズに指が動くようにする。</li> <li>・全体で曲中の音を曲の進行のとおり1拍ずつ吹き、スムーズに指が動くようにする。</li> </ul> <p>4 リズムをつけて楽譜どおりに練習し、曲になれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウフタクトの吹き始めが遅れない。</li> <li>・タイで結ばれた音、ブレスの前の音が短くならない。</li> <li>・スムーズにリピートする。</li> </ul> <p>5 伴奏に合わせて全体で主旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループや個人で演奏発表する。</li> <li>・友だちの演奏を聴いて、柔らかく美しい響きで演奏するための呼吸・タンギング・アーティキュレーションを感じ取る。</li> </ul> <p>6 次回は、他のパートを練習することを知らせる。</p>	<p>○楽譜の見方を説明する。</p> <p>○演奏を間近で見聴きすることによって新しい課題に対する興味をもたせ、練習意欲と自分なりの練習目標をもつように促す。</p> <p><b>○苦手な生徒を配慮して、まずリズムなしで運指がスムーズに変えられるように練習し、徐々にリズムや伴奏をつけて練習する。</b></p> <p>○全体練習のあとに個人練習の時間を取り、巡回してつまずいている生徒にはアドバイスをする。</p> <p>○難しいリズムは説明や範奏して理解させ、部分練習をする。</p> <p>○全体練習のあとに個人練習の時間を取り、巡回してつまずいている生徒にはアドバイスをする。</p> <p>○吹き始めやリタルダンドなど、伴奏者との呼吸を感じながら演奏することの大切さを感じとらせる。</p> <p>◆〔関・表〕伴奏に合わせて主旋律を演奏することができる。 (活動様相・発言チェック・振り返りプリント分析)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">A</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">伴奏の曲想を感じながら、つまずくことなく正しく演奏することができる。</td> <td style="padding: 5px;">楽譜の見方や新しい運指がわかり、伴奏に合わせて演奏することができる。</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;">Cの生徒への手だて・・・個人のつまずきに合わせて練習方法を指示したり、教師と一緒に練習したりしながら支援する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○本時の活動を振り返り、プリントに記入するように指示する。</p>	A	B	伴奏の曲想を感じながら、つまずくことなく正しく演奏することができる。	楽譜の見方や新しい運指がわかり、伴奏に合わせて演奏することができる。	Cの生徒への手だて・・・個人のつまずきに合わせて練習方法を指示したり、教師と一緒に練習したりしながら支援する。	
A	B						
伴奏の曲想を感じながら、つまずくことなく正しく演奏することができる。	楽譜の見方や新しい運指がわかり、伴奏に合わせて演奏することができる。						
Cの生徒への手だて・・・個人のつまずきに合わせて練習方法を指示したり、教師と一緒に練習したりしながら支援する。							